

愛知県
災害時外国人支援活動講座開催業務
＜報告書＞



令和5年 1月

目次

1	業務概要	1
2	災害時外国人支援活動講座	2
1)	概要	2
2)	第1部 知識編	6
3)	第2部 実践編	15
3	今後に向けて	25

1 業務概要

■業務名

災害時外国人支援活動講座開催業務

■業務目的

「あいち多文化共生推進プラン 2022」では『「多文化防災」の推進』を掲げており、言語や文化、国籍のちがいに関わらず、誰もが防災に関心を持ち、災害時には互いに支え合う「多文化防災」を推進することとしている。

そこで、大規模災害時に外国人県民の対応を直接行う市町村職員、国際交流協会職員及び社会福祉協議会職員等に対して「多文化防災」への理解を深めるための講座を開催する。

■業務内容

災害時外国人支援活動講座の開催

2 災害時外国人支援活動講座

1) 概要

■趣旨

災害は出身や国籍に関わらず、誰もが経験する可能性があるものである。愛知県内には多くの外国人住民が暮らしており、増加傾向が続いている。地域防災計画の中にも外国人への対応などが記載されるようになったが、避難所での具体的な備えや、外国人対応の訓練などは十分に行われていない。そこで、県内市町村の災害時の外国人支援体制構築の推進のきっかけづくり、および、災害時に外国人市民の対応をすることとなる市町村職員等の「多文化防災」に関する意識向上と外国人対応のスキルアップを目指し、本講座を実施する。

■講座の形式、内容

本講座は、ウェブ上で共有された動画を視聴してオンデマンドで学ぶ「第1部知識編」と、対面で訓練を行う「第2部 実践編」の2部構成である。参加方法は、「第1部のみ受講」、「第1部と第2部の受講」の2つの形式を用意した。

■対象者

市町村職員(多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、消防担当者)

市町国際交流協会職員

市町村社会福祉協議会職員 など

*第1部は上記以外の申し込みも受け入れた。

■開催方法

第1部 知識編… オンデマンド講座 (YouTube)

配信期間：9月9日（金）10時 ～ 10月18日（火）17時

第2部 実践編… 避難所巡回訓練 (対面)

日時：10月19日（水）13時30分～16時30分

場所：県三の丸庁舎2階 あいち国際プラザ アイリスルーム

（名古屋市中区三の丸2-6-1）

定員：30名程度

2022 年度

災害時 外国人支援活動講座

第1部 知識編：オンデマンド講座

第2部 実践編：避難所巡回訓練 ◀◀ NEW!!

10/19(水) 13:30～16:30
(定員 30 名程度・先着順)



🔊 プログラム

第1部 知識編（オンデマンド講座／約 150 分） [配信期間：9/9(金)10 時～10/18(火)17 時]

- 大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識／（一財）ダイバーシティ研究所 代表理事 田村太郎氏
 - 「愛知県災害多言語支援センター」について／愛知県 多文化共生推進室
 - 『多文化防災ガイド』の活用の仕方 ○「災害時多言語表示シート」の使い方
 - 災害時におけるやさしい日本語 ○災害多言語支援センターの初動／多文化防災ネットワーク愛知・名古屋
- ※昨年度2月に実施した内容と同じ内容も含まれています。ご了承ください。
- ※動画は YouTube で視聴していただけます。項目ごとに分かれていますので、少しずつ視聴していただけます。

第2部 実践編：避難所巡回訓練 （対面／180 分） ◀◀ NEW!!

○講師：多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

実際に災害が起きた時を想定し、避難所における外国人被災者への
対応方法や、情報の周知のポイントを学ぶ、実践講座です。

- ・避難所巡回訓練（巡回準備、外国人被災者への情報伝達・
聞き取り実践、巡回内容の共有）、ふりかえり



対象

市町村職員（多文化共生・国際交流担当者、防災担当者、消防担当者）
市町国際交流協会職員
市町村社会福祉協議会職員

案内
INFORMATION

注意事項

【第1部】

- 期間中に各自でYouTubeに公開された講義動画を視聴していただく方法で実施します。
- 第1部のみの受講が可能です。定員は設けておりません。
- 講義動画のURLは、申込者にメール等にてお知らせします。

【第2部】

- 第2部のみの受講はできません。第1部を受講したうえでご参加ください。
- 対面で実施します。マスクの着用、手指消毒にご協力ください。
- 入口で検温を実施します。37.5度以上の発熱が確認された方、体調がすぐれない方は、参加をお断りする場合があります。発熱などの風邪症状がある場合には、参加をお控えください。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、開催日を延期する場合があります。あらかじめご了承ください。変更する場合には、愛知県Webページやメール等にてお知らせします。

会場・アクセス

県三の丸庁舎2階 あいち国際プラザ アイリスルーム
（名古屋市中区三の丸二丁目6-1）
地下鉄名城線「市役所」駅から徒歩5分



申込方法

申込期間 8月16日（火）～9月5日（月）

- 愛知県Webページの講座専用ページ（右のQRコード）から、申込みサイトにアクセスし、指定事項を記入して申込んでください。Web申込みが難しい方は、以下を明記の上、メール、FAX又は電話でお申込みください。

- ①お名前 ②所属・職名 ③電話番号 ④メールアドレス
⑤参加形態（第1部のみ参加／第1部・第2部両方参加）

- 第2部を受講する方は、必ず第1部の内容を受講してください。
- 参加申込みは先着順で受け付けます。



主催・問い合わせ先

愛知県 県民文化局 県民生活部 社会活動推進課 多文化共生推進室

Tel：052-954-6138 FAX：052-971-8736 E-mail：tabunka@pref.aichi.lg.jp

企画運営：多文化防災ネットワーク愛知・名古屋（TABO ネット）

2) 第1部 知識編

■ 講義動画配信期間

令和4年9月9日（金）10時 ～ 10月18日（火）17時

■ 受講方法

申込者に講義動画のURLが掲載された特別公開ページを知らせ、各自都合のよい時間にアクセスして視聴する。第2部参加予定者は、これに加えて研修課題に取り組む。

■ 参加申込者

第1部のみの受講者: 35名

第1部・第2部の受講者: 27名 合計62名

[申込者内訳]

分類	人数	割合
1. 市町村職員	37	59.68%
2. 国際交流協会職員	8	12.90%
3. 市町村社会福祉協議会職員	4	6.45%
4. その他	13	20.97%

* その他内訳…県職員、愛知県警本部、学校関係者、日本語教育関係者、災害ボランティア、会社員等

■プログラム

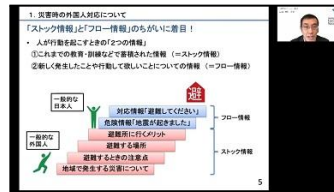
・講義動画 1 (60分)

タイトル：大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識

講師：（一財）ダイバーシティ研究所

代表理事 田村太郎氏

再生回数：66回



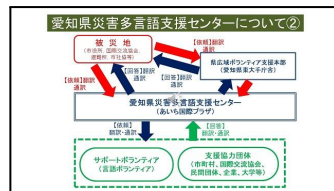
・講義動画 2 (15分)

タイトル：「愛知県災害多言語支援センター」について

講師：愛知県社会活動推進課 多文化共生推進室

主事 糸魚川拓氏

再生回数：45回



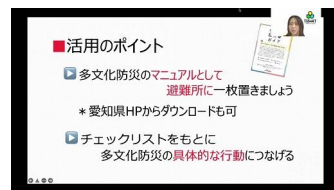
・講義動画3（10分）

タイトル：『多文化防災ガイド』の活用の仕方

講師：多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

長尾晴香

再生回数：39回



・講義動画4（1分30秒）

タイトル：災害時多言語表示シートの作り方

作成者：（一財）自治体国際化協会 * YouTube公開資料

・講義動画 5 (15分)

タイトル：災害時における「やさしい日本語」

講師：多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

安藤郁美

再生回数：45回



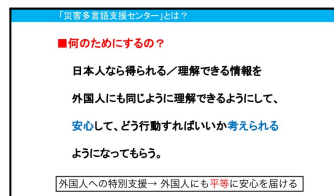
・講義動画 6 (25分)

タイトル：災害時多言語支援センターの初動

講師：多文化防災ネットワーク愛知・名古屋

十井佳彦

再生回数：42回



■第2部 事前課題

第2部実践編参加予定者には、当日までに以下の資料に目を通しておくよう求めた。

自治体国際化協会の資料3点

資料1：災害時多言語支援啓発動画「知識編」（YouTube 14分）

資料2：災害時多言語支援啓発動画「実践編」（YouTube 11分）

資料3：『災害時の多言語支援のための手引き2018』

第1部参加者アンケート 集計結果

申込者数：62名 回答数：42件 回収率：67.7%

質問1：回答者の所属

1. 行政職員	26 (63.41%)
2. 国際交流協会職員	5 (12.20%)
3. 市町村社会福祉協議会職員	3 (7.32%)
4. その他	7 (17.07%)

質問2：この講座を何で知りましたか。

1. 県からの講座の紹介メール	30 (71.43%)
2. 県のホームページ・Facebookをみて	5 (11.90%)
3. 講座の案内チラシをみて	1 (2.38%)
4. その他	6 (14.29%)

質問3：第1部知識編の全体の内容はいかがでしたか。

1. 大変有意義だった	24 (57.14%)
2. 有意義だった	16 (38.10%)
3. 普通	2 (4.76%)
4. あまりよくなかった	0 (0.00%)
5. よくなかった	0 (0.00%)

質問４：「大規模災害時の外国人支援に関する基礎知識」（動画１）はいかがでしたか。

1. よく理解できた	25 (59.52%)
2. 理解できた	17 (40.48%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.00%)
4. 理解できなかった	0 (0.00%)

質問５：「愛知県災害多言語支援センター」について（動画２）はいかがでしたか。

1. よく理解できた	23 (54.76%)
2. 理解できた	18 (42.86%)
3. あまり理解できなかった	1 (2.38%)
4. 理解できなかった	0 (0.00%)

質問６：『多文化防災ガイド』の活用の仕方（動画３）はいかがでしたか。

1. よく理解できた	23 (54.76%)
2. 理解できた	19 (45.24%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.00%)
4. 理解できなかった	0 (0.00%)

質問7：災害時多言語表示シートの作り方（動画4）はいかがでしたか。

1. よく理解できた	26 (61.90%)
2. 理解できた	14 (33.33%)
3. あまり理解できなかった	1 (2.38%)
4. 理解できなかった	1 (2.38%)

質問8：災害時における「やさしい日本語」（動画5）はいかがでしたか。

1. よく理解できた	26 (61.90%)
2. 理解できた	14 (33.33%)
3. あまり理解できなかった	1 (2.38%)
4. 理解できなかった	0 (0.00%)

*無回答1件

質問9：災害時多言語支援センターの初動（動画6）はいかがでしたか。

1. よく理解できた	27 (64.29%)
2. 理解できた	15 (35.71%)
3. あまり理解できなかった	0 (0.00%)
4. 理解できなかった	0 (0.00%)

質問10：受講以前に「多文化防災ガイド」について知っていましたか。

1. 知っていた	10 (23.81%)
2. 知ってはいたが、内容までは知らなかった	13 (30.95%)
3. あることを知らなかった	19 (45.24%)

質問10：第1部全体について、ご感想をお聞かせください。（抜粋）

- 昨年度多文化共生の担当になったが、災害時の外国人に対する対応について勉強する機会が少ない。このように一元化して学べる機会があるのは非常に助かる。
- 基礎知識を身につけるにあたり、非常に有意義だった。避難所に来れない外国人がいないようにするなど、顔の見える関係や、日ごろからの情報発信、コミュニケーションが大切だと感じた。
- 発災前、発災時、発災後の初動、避難期間の長短に分けられ、各機関、部署、個人がなすべきことがわかりやすくまとめられていてよく理解できた。段階別の作業チェックリストは準備を容易にしてくれると思う。
- 大規模災害時に外国籍の方に必要な支援の基礎がよくわかった。日頃から地域に暮らす日本人と外国籍の方がつながることの必要性を感じた。
- ストック情報のちがいで困りごとが起こるとは全く想像できていなかった。
- フロー情報ばかり翻訳しているという指摘に、確かにそうだと考えさせられた。
- 現状の把握や準備の重要性について理解することができた。
- 習慣や考え方が違う方々との相互理解が更に必要と感じた。地元がどうなってるか確認してみたい。
- 災害時は情報の翻訳及び発信だけではなく、避難所へ直接出向くことで外国人避難

者が本当に必要な情報を収集して彼らに「安心」を与えることが大切だと学んだ。

- 現実にとどこまでできるのかはかなり不安がある。行政も人手が限られており、役割は割り振れていない。
- 翻訳などは市内で手配できなくても、ネットが通じるようになれば、外部の協力を得られると教えてもらったのはよかった。
- 外国人集住地区から、外国人の自治会加入率が低く、つながりができない等の課題を市民より聞いている。平素から「顔の見える関係」づくりを心がけ、外国人も支援する側に立ってもらうことが今後重要になってくるのではないかと思った。
- こうした取組は行政主導だけではなく、地域住民と協働して行い、要配慮者に必要な情報が行き渡る仕組みを構築していくことが重要なのではないかと思った。

第1部知識編のまとめ

第1部知識編には合計62名が申し込み、各自講義動画を視聴した。そのうち、35名が第1部知識編のみの参加である。

講義動画6本のうち、申込数を超える再生回数となったのは講義動画1のみであり、十分な視聴期間を設けたのにもかかわらず、他の動画の再生回数は40回程度に留まった。昨年と同じ内容の講義動画が含まれること、参加者の中に昨年度も参加した人がいることも再生回数が少ない要因の一つだと思われるが、申し込んでも講義を全て視聴しなかった参加者がいることが窺え、残念に思う。

参加者アンケートは、42件（回収率67.7%）の回答を得た。講義全体の評価は「大変有意義だった（50%）」「有意義だった（46.2%）」と非常に高かった（質問3）。また、各講義動画の評価も「よく理解できた」「理解できた」という回答がほとんどで、よい評価を得られている（質問4～8）。第1部の感想を求めた質問10では、「基礎的知識から現場での対応、行政の取組を一連で知ることができ、有意義な研修でした」という回答があり、第1部は企画意図が参加者にしっかり届く物になっていたと推測できる。さらに、「フロー情報だけを翻訳していないかなど、情報提供について見直しを図りたい」や「市内外国人の現状把握や外国人の特性について今以上に知る必要があると感じた」という感想もあり、オンデマンド形式であっても、講義内容と自身の市町の状況や取り組みと照らし合わせ、今後の取り組みを考えるきっかけとなった様子が窺える。

2018年から公開されている、愛知県の「多文化防災ガイド」について尋ねた質問9では、「あることを知らなかった（45.24%）」人が最も多かった。存在を「知ってはいたが、内容までは知らなかった」人も約3割いる。今後さらに積極的な周知が必要だと思われる。

3) 第2部 実践編

■日時

10月19日（水）13時30分～16:30分

■場所

県三の丸庁舎2階 あいち国際プラザ アイリスルーム（名古屋市中区三の丸2-6-1）

■参加者

27名

[参加者内訳]

分類	人数	割合
1. 市町村職員	19	70.37%
2. 国際交流協会職員	4	14.81%
3. 社会福祉協議会職員	3	11.11%
4. その他	1	3.70%

* その他内訳…県職員

■プログラム

13:30	開会あいさつ
13:35	訓練内容・手順等の説明 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 土井佳彦
13:45	訓練開始 (1) 総務班、情報班による現状説明 (2) 巡回班作業
14:20	避難所巡回
15:00	巡回班作業
15:30	チームごとのふりかえり
15:50	全体共有、質疑応答
16:25	閉会あいさつ
16:30	閉会

■巡回班作業の様子



■避難所巡回の様子



第2部参加者アンケート 集計結果

参加者数：27名 回答数：27件 回収率：100%

質問1：回答者の所属

1. 行政職員	20 (74.07%)
2. 国際交流協会職員	4 (14.81%)
3. 市町村社会福祉協議会職員	3 (11.11%)

質問2：第1部知識編（動画）をご覧いただけましたか。

1. 全部見た	25 (92.59%)
2. 一部見た	4 (7.41%)
3. まだ見ていない	0 (0.0%)

質問3：第2部実践編の全体の内容はいかがでしたか。

1. 大変有意義だった	21 (77.78%)
2. 有意義だった	6 (22.22%)
3. 普通	0 (0.0%)
4. あまりよくなかった	0 (0.0%)
5. よくなかった	0 (0.0%)

質問4：質問3の評価の理由（抜粋）

「大変有意義だった」を選択した人

- 外国人を避難者役として招いていただいたのが非常によかった。日本語が話せない、わからない方との災害時のコミュニケーションがどれだけ大変体感できた。
- 外国人避難者への聞き取りについて、頭の中で考えていたことと実際に聞き取りしてみたことのギャップが大きく、非常に難しかった。訓練でこういう難しさを体験できて大変有意義だった。
- 実際に外国人の方と話せたことは、日々の業務では体験できないので、よい刺激となった。実際に体験しないことには見えてこないところもあったと感じる。
- 外国人の方からのフィードバックがとてもとてもありがたかった。
- 日本語が話せない外国人の方とのコミュニケーションの難しさを感じたが、その中でも有効な手段（アプリの有用性）を理解することができた。
- 実際にやってみることで今まで得た知識をどのように活用すればよいのか、逆にどのような知識を得なければならないのか把握できた。
- 外国人に対する支援について、普段考えていた方法が意外に上手くいかないことがわかり、職場ですべき課題等が分かった。
- 外国人市民と防災訓練で接する機会がないため、この機会に課題を見つけられた。

「有意義だった」を選択した人

- 実際の避難所を想定した実践的な訓練を行ったことで、外国人避難民への対応のイメージを掴むことができた。またフィードバック、全体共有を通じて、様々なアプローチ方法、手段等を知ることができ、視野が広がった。
- 実践してみて、課題がより実感できた。

質問5：第2部実践編全体の進行はどうでしたか。

1. とてもよかった	18 (66.67%)
2. よかった	8 (29.63%)
3. 普通	1 (3.70%)
4. あまりよくなかった	0 (0.0%)
5. よくなかった	0 (0.0%)

質問6：今後ご自身の部署でどのような取組・備えが必要だと感じましたか。

- 自治体内の外国人の状況の把握
- 情報の多言語化
 - あらかじめ準備できる書類の多言語化
 - ホームページ、ハザードマップ、避難所マニュアルの多言語化
 - やさしい日本語の活用
 - ピクトグラムの活用
 - VoiceTraなど翻訳アプリの活用
- 外国人も安心して使える避難所作り
 - 多文化対応の避難所開設
 - 多言語表示シートの各避難所への配備
- 災害時の外国人対応の確認
 - 課内で情報共有し、役割を具体的にイメージできるようになること
 - 多文化共生部署と防災担当課の連携など、庁内連携の確認
 - 避難所開設からの外国人対応の見える化
 - 巡回時の聞き取り内容のリスト化、マニュアル化
 - 災害ボランティアセンター立ち上げ時の動きに外国人支援をどう絡めるかの協議

- 災害ボランティアセンター設置時の職員の勤務体制の整備
- 日常的な外国人住民とのつながりづくり
 - 日頃から外国人住民との交流
 - 平時からの外国人当事者、支援団体とのつながり
- 訓練・研修等
 - 職員の外国人に対するコミュニケーション理解研修
 - やさしい日本語の普及
 - 翻訳ツール利用方法の勉強会
 - 外国人対応を含む実践的な避難所対応シミュレーション、訓練
 - 外国人住民への防災意識啓発
- その他
 - 他市町村からの支援受け入れ態勢の整備
 - 計画の実現性の検討
 - 実際には、どれだけのボランティアが活動できるか
 - 遠い避難所への巡回ボランティアの移動手段
 - ボランティアの養成は十分か

質問 7：今回の避難所巡回訓練は、巡回前の情報班・総務班の活動を省略した短縮版です。

それについて、どう思われましたか。

情報収集班・総務班の訓練も必要だと感じた	12 (44.44%)
巡回班の訓練だけでよいと感じた	8 (29.63%)
その他	7 (25.93%)

質問8：第1部知識編も含め、本講座についてご意見やご感想をお聞かせください。

【講座内容への要望・フィードバック】

- ロールプレイの時間をもう少し長く取ってほしい。（2件）
- 知識編の公開期間が十分あり、急なスケジュール変更があっても自分のペースで受講できた。
- 避難所を担当する職員は、多文化共生関係、防災関係以外の課の人が多い。保育士や土木職も含まれる。その人たちを対象にしたオンライン講座があるとよいと思った。

【各市町での講座実施の要望】

- 避難所において、外国人が来るかもしれないという認識はあるものの、本日のように実体験できる機会がありません。避難運営の町内会や、防災部局、多文化共生部局の職員にとって有意義なものと思います。〇〇市でもこのような講座をやってみたいです。
- 是非派遣型で市町村等で講座を実施していただけるとうれしいです。
☆同様の要望が合わせて4件あった。

【他部署との情報共有の必要性】

- 学ぶことが多くとても勉強になりました。多文化共生担当だけでなく防災担当も参加させたいと強く思いました。
- もっと外国人支援はこういう流れだよ！ということを伝えていかなければならないと思いました。（防災課がこれらを知っているのか不安です。）
- 関連する各課がともに受講し、情報共有を図ることができるとよいと思いました。

【その他】

- 観光客への対応も考えていきたい。
- 可能であれば外国人の方から外国人向けの防災講座（避難所など）を実施いただけると嬉しい。
- いつ起きるか分からない災害への日頃からの備えは必要かつ重要なことであると思った。どのようなツールを活用するのか、何が必要なのかを考える貴重な機会になったし、様々な方法があることを理解することができたので、とても有意義な講座であると思った。
- 実際に大きな災害を経験してしまう前に訓練という形で体験できたのは大変有意義だった。今後も似たような講座には可能な限り参加したいと思った。
- 本日この場で実際に巡回役を実践できたのが大きい学びとなった。今後もこういった研修は率先して受けたい。
- 大変勉強になりました。災害時に伝える情報は様々な分野にわたるので、平時から各課が心構えと準備に取り組むべきだと感じました。
- 今回勉強したことが発揮できるか、同じような研修をもう一度経験したい。
- 学区単位での外国人住民の状況や、集住地域をより詳しく把握する必要性を感じた。

第2部実践編のまとめ

本講座ではこれまで災害時外国人支援活動における基礎的な内容を扱ってきたが、その後の展開として、より実践的な訓練の必要性が求められていた。今年度は2年ぶりに対面での実施が可能となったため、被災者役外国人の協力を得た避難所巡回（ロールプレイ）を実施することとした。「災害多言語支援センター」の設置運営においては、情報収集・発信、相談対応等を通じて被災者に「安心」を届けることが活動目的とされており、訓練においても一連の流れを確認するのが一般的であるが、本講座では時間の制約上、情報班と総務班の作業を割愛し、巡回班の訓練のみとなった。しかし、訓練参加者アンケートからは、さまざまな気づきや学びが得られたことが確認された。

参加者アンケートには、特に実際に外国人被災者とのやりとりを体験したことに関する感想が多く寄せられた。中でも、普段の職場では外国人住民と接することが少ないために、今回の訓練を通してコミュニケーションの難しさや外国人への情報発信の方法の見直しの必要性を感じる人たちが多かった。また、知識編や訓練前の説明で、気を付けるべきことやその場でできる工夫などを理解できたと感じていても、実際にはそれを活用・実行することが難しいと気づけたことも大きな糧だったようだ。さらに、被災地を設定した訓練であったため、受け入れ自治体や災害対策本部、災害多言語支援センターとの関係の中で動くということを体験できた。それによって、災害時に外国人次対応をするには防災担当課など他部署との連携がなければできないことが容易に想像でき、体制確認・整備の必要性を強く感じることもできたようだ。参加者が国際交流・多文化共生担当者（国際交流協会含む）、防災関係の担当者、災害ボランティアセンターを設置する社会福祉協議会職員であったことから、参加者同士で自然とそれぞれの自治体の状況の情報交換が起こり、お互いに課題の共有や今後に向けた意見交換等を行うことができていた。

今回の参加者は、ほとんどの場合1自治体から1人ずつの参加であった。しかし、アンケートには「私の自治体でもこのような訓練をしてほしい」「今日参加していない他部署の職員にもこの講座を受けさせたい」という声が複数寄せられている。各自治体内の

ステークホルダーと一緒に講座・訓練を受け、一緒に課題を認識し考える場の必要性が強く感じられた。

3 今後に向けて

以下に、今年度の講座の成果と課題をまとめる。

[成果]

- 昨年度報告書の提案（1.3）を踏まえ、講座の開催時期を冬から予算編成前の時期に変更した。参加しやすく、来年度以降の各自の取組につなげやすい時期に開催することができた。
- 昨年度参加者が少なかった社会福祉協議会に広報メールを送り、参加者を増やすことができた。
- 講座の構成を大きく変更し、災害時の外国人対応の基礎知識を学ぶオンデマンド講座と、実際に外国人対応を体験する避難所巡回訓練の2部構成とした。これらによって、以下の3つの成果が得られた。
 - 外国人にもわかりやすくなるように情報発信することの必要性や、外国人とのやりとりの慣れの重要性に気づいてもらえた。
 - 国際担当部署だけでなく、防災担当など災害時の対応に当たる関係者との連携体制の確認や情報共有の重要性に気づいてもらえた。
 - 適切な対応をするためには、地域の状況をしっかり把握しておくことの重要性に気づいてもらえた。
- 少人数ではあったが、名古屋市内で暮らす外国人に訓練に協力してもらうことができた。受講者に大きな気づきを与える役割を担ってもらえたとともに、災害が発生したらどのような状況が起こるのか、どのような対応がされるのかを知ってもらう機会とすることができた。

[課題]

- 実践編の時間が限られており、「災害多言語支援センター」の設置運営訓練のうち避難所巡回訓練しか扱うことができなかった。しかし本来、災害多言語センターと連携した外国人支援の体制は、総務班、情報班、巡回班などの総合的なチーム運営で成り立っている。その部分を学んでもらう時間が足りなかった。

本講座は平成30年度から毎年実施されており、その実施報告書の中で「多文化防災」推進に向けた提案がなされている。これまでの提案を含め、実施されたもの、まだ実施されていないものを整理しておく。実施済みのものは今後の継続・展開を、未実施のものは実施に向けた検討を求めたい。

＜多文化防災推進に向けた提案＞

*（ ）内は提案年度

*下線部はこれまでに実現できた提案

1. 講座の継続開催について
 - 1.1. 本講座と同様の講座を今後も定期的・継続的に開催すること
(H30、R1、R2)
 - 1.2. 7月・8月など、早い時期に開催すること (R3)
2. 講座の対象者について
 - 2.1. 災害時外国人次対応に当たる可能性のあるすべての自治体職員等に講座への参加を呼びかけること (H30、R1)
 - 2.2. 避難所運営を担う地域住民にも講座への参加を呼びかけること (R2)
 - 2.3. 講座の主な対象を災害時外国人次対応の体制づくりを担う人々(自治体職員、国際交流協会職員、社会福祉協議会職員)とし、参加者の役割に合わせた講座を開催すること (R2)
3. 「多文化防災ガイド」(H30作成)の周知・活用について
 - 3.1. 「多文化防災ガイド」についてメディア等を通じて十分に周知すること (H30)
 - 3.2. 「多文化防災ガイド」とその活用方法を広く周知すること (R1)
 - 3.3. 「多文化防災ガイド」を活用した講座等を企画・実施すること (H30)
 - 3.4. 「多文化防災ガイド」の避難所運営訓練等での活用方法について提案すること (H30、R1)

4. 本講座以外の機会作り
 - 4.1. 本講座を基礎研修とし、その後の実践的な訓練や具体的な改善等を議論する場作りにつなげること（H30、R1）
 - 4.2. 本講座の内容に加え、避難所での外国人対応などの体験を通して、必要なものの整備や、連携等を議論するステップアップ講座を開催すること（R1、R3）
5. 外国人県民に向けた取り組み
 - 5.1. 本講座を外国人も参加しやすいようにアレンジし、開催すること（H30、R1、R3）
 - 5.2. 「多文化防災ガイド」を外国人にもわかりやすいようにアレンジすること（H30、R1）
6. 各市町村への働きかけ
 - 6.1. 本講座をモデルとし、各市町村主催での開催を働きかけること（H30、R1）
 - 6.2. 県および各市町村の既存の防災に関わる研修に「多文化防災」の要素を取り入れるように働きかけること（R2）
7. これまでの講座の効果の測定
 - 7.1. 各自治体が行っている防災研修や支援者の養成研修の中で「多文化防災」の視点がどの程度取り入れられているかを調査すること（R2）
 - 7.2. 「多文化防災ガイド」の避難所運営訓練等での活用事例を確認し、ホームページやSNSで広めること（H30、R1）

（参考）

- ・平成30年度報告書…https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/336402_1346033_misc.pdf
- ・令和元年度報告書…https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/336402_1346035_misc.pdf
- ・令和2年度報告書…https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/336402_1346038_misc.pdf
- ・令和3年度報告書…https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/438139_1974398_misc.pdf

2023年 1月

愛知県 災害時外国人支援活動講座開催業務＜報告書＞

多文化防災ネットワーク愛知・名古屋